

# 育成 あさくち

平成26年10月1日  
浅口市青少年育成センター  
NO. 6

文部科学省が25日公表した2014年度全国学力テストの結果で、岡山県の全国順位は小学6年が前年度と同じ38位、中学3年が前年度32位から下がり42位となった。依然として低水準にある。平均正答率が全科目で全国平均を下回った。全国との差が最も大きかったのは中学数学Bで3.9ポイント低かった。小学校では算数Bで差が最大となり、1.6ポイント下回った。小中ともに知識の活用を苦手とする傾向が表れた。中3は基礎を問うA問題でも全国との差が広がり、同県の過去最低だった12年度と同順位に低迷した。教育再生を県政の最重要課題と掲げているが、厳しい結果となった。

(2014年08月25日 山陽新聞 HP 記事より引用)

## 平成25年度全国学力・学習状況調査「保護者に対する調査」

文部科学省委託研究「平成25年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」(国立大学法人お茶の水女子大学)調査の概要 H26.3

本研究は、平成25年度全国学力・学習状況調査の追加調査として実施した「保護者に対する調査」の結果を活用し、家庭状況と学力の関係、不利な環境にも関わらず成果を上げている学校や児童生徒の取組を分析するものである。

**保護者が以下の行動や考え方をしている方が、子供の学力が高い傾向が見られる。**

保護者の意識等と学力の関係 子供への接し方

生活習慣に関する働きかけ

(毎日決まった時間に寝る/起きるようにしている、毎日朝食を食べさせている、テレビゲームで遊ぶ時間を限定している、携帯電話等の使い方に関するルールや約束を作っている(または、テレビゲームや携帯電話等を持たせていない))

読書に関する働きかけ

(本や新聞を読むようにすすめている、読んだ本の感想を話し合ったりしている、小さい頃に絵本の読み聞かせをした)

学習に関する働きかけ

(子供の勉強を普段みている、計画的に勉強するように促している、子供が英語や外国の文化に触れるよう意識している)

文化・芸術・自然体験活動に関する働きかけ

(子供と一緒に「博物館や科学館」「図書館」「美術館や劇場」に行く)

子供とのコミュニケーション

(子供と「学校での出来事」「勉強や成績」「将来や進路」「友達のこと」「社会の出来事やニュース」について話をする)

\* 文部科学省の委託により国立大学法人お茶の水女子大学(代表 耳塚寛明 理事 副学長(教授))が分析  
国や県、市などを筆頭に各学校で学力向上に向けて、さまざまな取り組みが行われていますが、結局は、今までよく言われてきたように学力と日々の生活との相関関係が見られるようです。ややもすれば学力だけに意識が向きがちですが、上記のような「**基本的な生活習慣**」がいかに大切か……。もう一度、子ども達とのかかわりを見直すきっかけにしたいと思います。

## 【9月の青少年育成センター活動報告】

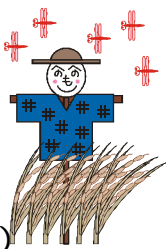
喫煙指導6人 交通マナー等注意11人 声かけ活動63人

## 【10月の行事予定】

定例補導 金光地区(8, 23日) 鴨方地区(2, 15, 22日) 寄島地区(16, 30日)

坂出市視察研修(8日浅口市訪問) 中高生徒指導連絡会(10日) 尾道市視察研修(28日)

浅口市青少年育成活動協議会 研修参加希望者) 列車補導(29日)



人間が成長するために  
壁は必要。

大人は愛情をこめて、  
子どもの壁になるべき。

世の中には自分の思い通りにならないことがあると  
子どもに教えるのも大人の役割。

## 挫折や障碍物が人を強くする

「今の子どもたちは打たれ弱い。その理由の一つとして考えられるのは、この子どもたちは、海で泳ぎを習わず、プールで習ってきているからだ」といった人がいます。つまり、波にぶつかる機会がないまま育ってしまったために、世間の荒波にぶつかった時に、対処できないのだということでした。

道路についても同じことがいえます。今やほとんどが舗装されていて、デコボコの道、泥んこの道、石ころ道を歩くことは少なくなりました。しかしながら、私たちの一生は決して平坦な道ばかりではなく、波風の立たない、適度な温度調節がされたプールでもないのです。たくさんしょうがいぶつの障碍物が立ちほだかり、行く手を塞ぐ壁かきとなっています。

育っている間、したいことは何でもさせてもらい、したくないことはしなくていい。そして、それが自由であるかのように育てられた子どもたちは、壁にぶつかった時にどうしてよいかわからず、落ち込んだり、生きる勇気まで失ってしまふことがあります。

壁かきというものは、人間が成長するためにはならないものです。世の中の厳しさを知るために、何もかもが自分の思い通りに行かないことに気づくために必要なものなのです。

壁にぶつかることで、人は、今まで持っていた自分の価値観と異なる価値観があることに目覚め、自分を振り返り、自分の生き方、主義主張を見直すよい機会ともなります。

壁かきはかくて必ずしも、乗り越えないといけないものばかりではなく、必要な存在でもあるのです。世の大人はもちろんですが、親、教師の立場にある人たちがこそは、愛情をこめて、子どもの壁になるべきだと考えています。



皆さんは、どう思われますか？

出典 渡辺 和子著「面倒だから、しょう」より

## <自転車>女子高生が下り坂で衝突、歩行者が死亡 京都

17日午後7時10分ごろ、京都府大山崎町円明寺の府道で、歩いて横断していた近くの無職、竹谷陽子さん(79)が、府立高校2年の女子生徒(16) = 京都市伏見区 = が運転する自転車と衝突。竹谷さんは頭を強く打ち、病院に救急搬送されたが約6時間後に急性硬膜下血腫などで死亡した。女子生徒も転倒し、あごの骨にひびが入るなどの重傷。

京都府警向日町署によると、府道は西から東に向かう下り坂。女子生徒はクラブ活動の帰りで、坂を下っている途中で衝突したとみられ、「ブレーキをかけたが間に合わなかった」と話している。竹谷さんは日課の散歩中で、横断歩道や信号のない場所を横断していたという。府警は女子生徒が前方をよく見ていなかった可能性もあるとして、重過失致死などの容疑で調べている。

毎日新聞 平成26年9月18日(木)ネット配信【花澤茂人】

被害者の方は勿論のこと、加害者になってしまった女子高校生にとってもつらい事故になってしまいました。学校の先生方と情報交換すると、毎回のように交通マナーを心配する声が聞かれます。心のどこかに「まさか自分が・・・」「自転車は自動車に比べて・・・」等、安易な気持ちがあるのではないのでしょうか。朝のあいさつ運動中にも、猛スピードや右側通行の自転車通学生を見かけます。自転車は車両だという意識を利用者も歩行者も持って、交通安全に気をつけてほしいものです。

## 【10月の青少年育成センター活動報告】

喫煙指導3人 総学指導1人 交通マナー指導6人 声かけ活動50人

## 【11月の行事予定】

※11月 青少年健全育成強調月間(岡山県)、子ども・若者育成支援強調月間(内閣府)

定例補導 金光地区(11,18,25日) 鴨方地区(5,12,27日) 寄島地区(20,26日)

特別補導(7日) 高補連絡会(14日浅口市中央公民館) 街頭キャンペーン(19日)

列車補導(21日) 育成センター中国ブロック研修会(28日福山市:申し込み者)



## 【来られました！坂出市少年育成センター視察研修】

10月8日(水)に坂出市から青少年健全育成市民会議・少年を守る母の会会員・少年育成センター補導員・育成センター職員の35名の方々が浅口市青少年育成活動協議会の活動視察研修のため、浅口市青少年育成センターを訪問されました。当日は、浅口市からは澁谷会長、虫明副会長、山本副会長をはじめ、教育委員会の担当職員等7名が参加しました。研修会では、浅口市の活動報告を行い、その後、質疑応答意見交換等を行いました。

以下、坂出市からの主な質問内容を紹介します。

- ・坂出市もいろいろな団体があいさつ運動を行っていますが、浅口市のあいさつ運動について、もう少し詳しく説明してほしい。



- ・育成センターの補導員には警察のような権限がないが、指導が難しい青少年に対して具体的にどういう指導を行っているか。
- ・生涯学習課の管轄下に「少年育成センター」が位置づけられ、男女共同参画事業の取り組みなど多岐に亘る活動要請があるが、浅口市での様子を聞かせてほしい。
- ・いじめ等の相談があった時の他の部署との連携について
- ・浅口市青少年健全育成協力店での活動内容についてもう少し詳しく教えてほしい。等

当日は、台風 18 号の影響も心配されたのですが、あっという間に予定していた 1 時間 30 分の研修時間が過ぎてしまいました。坂出市からの質問には、浅口市青少年育成活動協議会役員、浅口市、青少年育成センターそれぞれの立場から説明させていただく機会がありました。帰りには中央公民館の駐車場までお送りし、晴天の国立天文台の雄姿もご覧いただきました。この貴重な経験を今後の浅口市の青少年育成活動に活かしていこうと思います。

### 【六愛・荒張地区青色防犯パトロール隊出発式】

10月21日(火)に六条院小学校のグラウンドで標記の式が行われました。育成センターからも青パト車で参加しました。地域の有志の方々が、子ども達の安心・安全な生活に寄与するために組織された自主パトロール隊です。「地域の子は地域で育てよう」を合言葉に活動されます。この輪が全市に広がり、すべての子ども達の安心・安全な生活が守られることを願います。



### 【行きました！尾道市青少年センター視察研修】

10月28日(火)に浅口市青少年育成活動協議会の役員の方々14名と各支部担当者3名、青少年育成センター職員2名の合計19名で尾道市青少年センターに視察研修に行ってきました。この研修の成果を今後の浅口市青少年育成活動協議会(会員231名)及び各支部の取り組みに活かし、より充実した活動ができるようにしていきたいと思ひます。



「尾道市青少年センターの皆様、ありがとうございました！」

以下、主な研修内容を紹介します。

(浅口市からの質疑応答)

尾道市補導連絡協議会は2ヶ月に一度開催されているそうです。協議会では各地区補導員会会長(21地区)、教育事務所、市教育委員会、学校、警察関係者の方35名が、約1時間30分ほどの会議で非行防止対策の企画、立案、情報の交換等を行い、情報の共有と有効な対策の事例検討を行っているそうです。浅口市青少年育成活動協議会も構成メンバー231名と大所帯の組織ですが、主に旧町単位で各団体独自の活動がメインになっています。浅口市全体としての今後の活動の参考になる事例内容でした。

(尾道市からの質問)

浅口市の小学生の登下校中の見守り隊の活動内容についてご質問いただきました。



# 育成 あさくち

平成26年12月1日  
浅口市青少年育成センター  
NO. 8

岡山県警は28日、2014年上半期(1~6月)の少年非行状況を公表した。県内の少年千人のうち、刑法に触れて摘発された少年が何人いるかを示す「非行率」は4.5人(前年同期4.9人)で、国内平均(2.4人)の1.9倍。12年から3年連続で全国最悪となった。ワースト2位は広島県の3.9人、3位は大阪府と兵庫県の3.4人だった。

県内の年間の非行率は03年から全国ワースト10位以内が続き、12、13年は全国最悪。校内暴力に絡む摘発・補導も13年は93人。今年上半期は前年を上回るペースの52人に上り、深刻な状態が続いている。

今年上半期の県内の刑法犯少年は延べ860人(前年同期比91人減)。内訳は、万引など初発型非行の窃盗犯が551人(64.1%)で最多だった。次いでけんかなどの粗暴犯が134人、詐欺などの知能犯7人、強盗・放火といった凶悪犯は5人だった。

年代別では、中学生が前年より微増して454人。全体の52.8%を占めており、過去5年で最多の割合となった。一方、高校生は2.5ポイント減の188人で減少傾向にあり、犯罪の低年齢化が目立つという。過去に摘発された少年の再非行率は28.8%だった。

対策として県警は4月、専門捜査員23人が各校を訪問する「学校警察連絡室」を設置し、児童生徒への指導を続けている。石部秀行県警生活安全部長は「非行率は高いが、刑法犯少年の数自体は減少しており、今後も粘り強く規範意識の向上に努めたい」と話している

「下線は引用者による」(山陽新聞HP 2014年08月28日配信)

## キーワード

初発型非行の窃盗犯...犯行手段が容易で、動機が単純な万引き、自転車盗、オートバイ盗及び占有離脱物横領をいいます。初発型非行は、さらに悪質な非行に走る入り口になる犯罪であり、決して安易に受け止めてはいけません。(初発型という言葉で誤解のないようにしてください。)

犯罪の低年齢化

再非行率

「自転車やオートバイを駐輪するときは必ず鍵を掛ける」「防犯意識を持って散歩したり、率先してあいさつを交わしたりする」など、地域の一人ひとりの小さな防犯意識の向上が大きな力となり、有効な対策につながっていくのではないのでしょうか。



## 【11月青少年健全育成街頭キャンペーン】

11月19日(水)にJR金光駅・鴨方駅周辺で「岡山県青少年健全育成強調月間」の行事の一環として街頭キャンペーンを実施しました。当日は、浅口市青少年育成活動協議会、浅口市青少年育成指導員の方々、浅口市教育委員会職員等、総勢35名の方が早朝7:30から駅周辺でチラシと啓発グッズを配布して駅の利用者に「青少年の健全育成」を訴えました。



鴨方駅での街頭キャンペーンの様子(鴨方高校の生徒会のメンバーも飛び入り参加)

## 【中国ブロック少年補導センター連絡協議会 研修参加報告】

11月28日(金)午後1時30分から福山市役所で開催された「中国ブロック少年補導(育成)センター連絡協議会」に参加してきました。当日は、浅口市青少年育成指導員連絡協議会からも事務局員を含め7名が参加しました。今年は、浅口市青少年育成センターが「浅口市青少年育成センターの取り組み」という題で20分の事例発表を行う機会をいただきました。参加者の方の参考になったのか一抹の不安もありますが、昨年からの2年間の取り組みの総括を発表しました。今後、参加者の方から貴重なご意見やご感想等いただければ、青少年育成センターの運営に活かしていこうと思います。当日、浅口市から参加していただいた会員の皆さまには、改めてお礼申し上げます。

- 1 開会行事
- 2 記念講演

演題「青少年育成活動の成果と今後の展開」 福山大学人間文化学部心理学科 平 伸二 教授  
キーワード:「居場所づくり」「出番の確保」

- 3 事例発表

「浅口市青少年育成センターの取り組み」 浅口市青少年育成センター 飯田 秀男

- 4 閉会行事 次回開催地 岡山市あいさつ

## ~ 特別寄稿 【麻薬・覚醒剤乱用防止運動 岡山大会】に参加して~

浅口市青少年育成指導員(薬物乱用防止中堅指導員) 山下 秀光

麻薬・覚醒剤そして危険ドラッグが社会問題となっている。薬物乱用防止を推進する運動が、10月28日岡山市北区駅元町の岡山コンベンションセンターで開かれ、中高生や専門学生、覚醒剤等乱用防止指導員ら約700人が参加した。「薬物乱用の現状と対策」として、厚生労働省麻薬対策課啓発推進係長 加藤宏二氏の講演を聴き、非行少年や薬物乱用者らと深夜の繁華街をパトロールしている水谷修 花園大学客員教授(夜回り先生)の薬物の危険性について特別講演があった。「さらば、哀しみのドラッグ」と題し、薬物によって尊い命が奪われた実例を聴講者に切々と訴えた。暴走族で有機溶剤(シンナー)吸引を覚え、幻覚や妄想が現れて、吸引後、交通事故で亡くなった事例や少女が売春でエイズウィルスに感染し、薬物を常用して鎮痛剤が効かず、悲しい最後になった衝撃的な話などがあった。



「心の死」・薬物のためなら平気で何でもする。「頭の死」・薬物のことしか考えられなくなる。「肉体の死」・体をどんどん蝕んでいく。薬物乱用にはこの「三つの死」がある。合法ハーブ、脱法ドラッグと称した薬物を2014年7月22日に警察庁と厚生労働省は呼称を「危険ドラッグ」に改めた。

薬物乱用撲滅に「薬物乱用は絶対ダメ!」薬物の怖さを今一度、再確認した大会だった。

(山下指導員さん、ありがとうございました。他の指導員さんも是非、ご寄稿ください。)

## 【11月の青少年育成センター活動報告】

喫煙指導3人 声かけ活動35人

## 【12月の行事予定】

定例補導 金光地区(3, 18日) 鴨方地区(2, 4, 10, 17日) 寄島地区(9, 16日)  
中高生徒指導連絡会(12日) 年末特別補導(25日倉敷駅周辺・参加者募集)